

# 蒲生干潟の植物54 分布調査 2026年4月21日

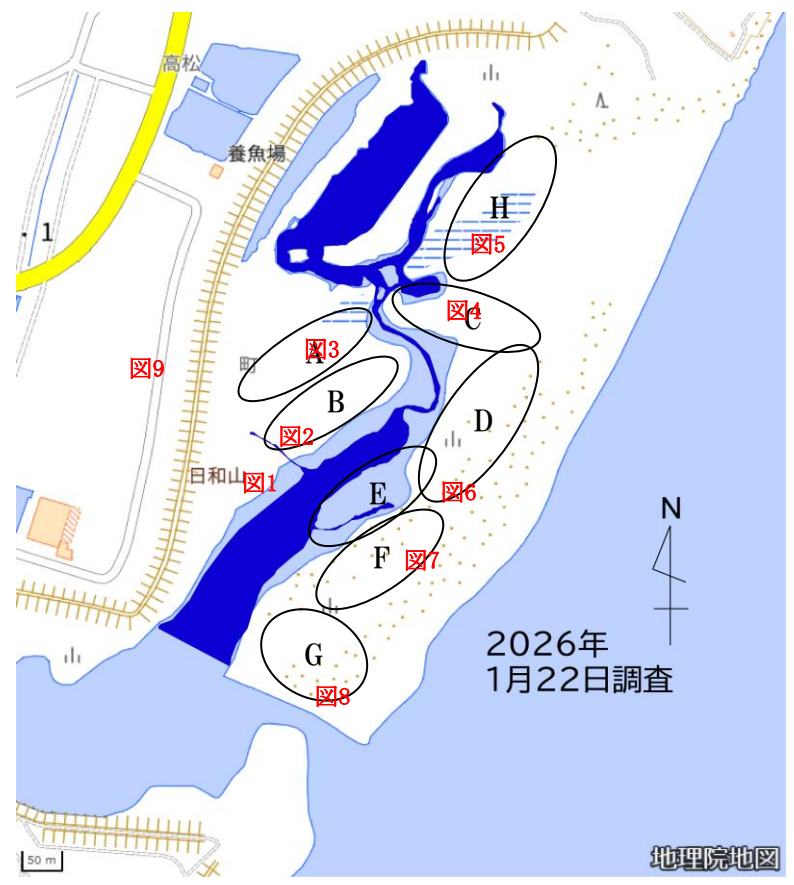
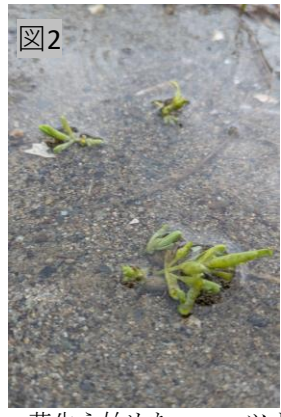


図1 定点観測 水量が多い



芽生え始めたハマツナが水没している (図2,3)



図4 ハマヒルガオ 図5 メマツヨイグサ 図6 開花したハマエンドウ 図7 雑種と見られるタンポポ 図8 マメ科植物 図9 ナガミヒナゲシ

調査日 2026年4月21日 (火) 10:15~11:45  
 水量が多くエリアBの広範囲が浸水していた。先月は見られなかったハマツナが芽を出し始めていた。多くの新芽が海水に浸かっていたが、図3では完全に水没した草体の表面が銀色に光り薄く空気層をまとっているように見える。時に広く浸水するエリアBの中でハマツナが優占して繁殖しているのは耐塩性の強さによるものである。エリアCやDでは先月見られなかったハマヒルガオが芽を出し広がっていた (図4)。これまでは主にエリアFやGで見られていたメマツヨイグサやコマツヨイグサがエリアHでも小規模ながら広がっていることを確認した。エリアDでは既に開花しているハマエンドウが2株だけ見られた (図6)。エリアFでは1株の大きなタンポポが咲いていた。潟湖東側では昨年までの調査では見られなかった。総苞片をよく見ると茎まで反り返っておらず、ニホンタンポポとセイヨウタンポポの雑種と思われる。図8では中央から外へ大きく茎を伸ばして成長するマメ科植物が見られた (図8)。コメツブウマゴヤシかと思われるが、花が咲いてから改めて確認したい。図9は駐車場で見られた外来種のナガミヒナゲシで、茎や葉から出る成分にアルカロイド系の物質が含まれており、触れるだけでも危険がある。近年ニュースにも多く取り上げられている注意が必要な種である。(伊藤勝彦)